

# 第19回世界獣医学会議参加およびアメリカ合衆国獣医畜産 事情視察団報告(3)

誌名	日本獣医師会雑誌 = Journal of the Japan Veterinary Medical Association
ISSN	04466454
巻/号	25巻5号
掲載ページ	p. 245-249
発行年月	1972年5月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



こととした。

#### Ⅳ. 事故発生の原因と推定される事項

緊急調査の範囲内で、これらの事故発生の原因を究明することは不可能であるが、指導・調査員から報告された事項を簡潔に整理すると次のとおりである。

1. 乳用雄子牛の肥育は歴史が浅く、きめのこまかい飼養技術が確立されないまま生産のみが先行していること。従って飼養環境、飼養管理、衛生管理の全般にわたって改善を要する点が多いこと。

2. とくに哺育段階の事故対策として重要な初乳の給与が不足していること。このため免疫抗体をもたない子牛が輸送および飼養環境の変化によるストレスも加わり導入直後に下痢、肺炎等を多発し、これらの多くが廃死している。

3. 技術指導とくに衛生指導がなされていない。また、とくに哺育段階で疾病の早期発見と早期処置が行なわれないため、被害を大きくしている。この場合獣医師の診療をうけることはまれで（経営採算の点から）素人療法によるものが多く、このことが一層事態の悪化に拍車をかけている。

#### Ⅴ. 今後とるべき対策の方向

緊急調査の段階で適確な対策を結論することは困難であるが、指導・調査員の意見および若干の現地調査を実施した所見を総合して、今後とるべき対策の方向として考えられる事項および本調査を含めて今後検討を必要とする問題にふれると大要次のとおりである。

1. 肥育乳用雄子牛衛生対策の最重要事項と考えられる哺育段階の衛生対策のポイントは初乳の十分な給与と導入直後の衛生管理にあるが、前者については、現状では導入時のチェックが非常に困難であり、また、輸送による障害がきわめて大きいこと、さらには哺育経営の多頭化は、現状においては普遍性をもっていないことなどから、哺育段階は酪農家が分担することが望ましいと考えられる。この場合、酪農家に対する奨励措置を講ずる必要がある。

哺育段階を酪農家から分離して分担経営させる場合にも素牛を同一地区内から入手できること（長距離輸送は不可）、一定期間初乳・全乳の給与についての酪農家との契約などを前提とし、かつ導入直後の隔離飼育、畜舎消毒の確行など導入直後の衛生管理に万全を期することが不可欠の要件である。哺育センターなどで集団哺育を行

なう場合には、高度な獣医技術の投入が必要であり、家畜保健衛生所の活用と獣医技術者の設置または委嘱が必要であろう。

2. 乳用雄子牛肥育の全般を通じて技術が低く、とくに哺育段階における衛生技術は飛躍的な改善向上をはかる必要がある。このために衛生指導体制の確立が緊要であるが、哺育段階において既に発生した疾病に対する治療は、経営採算の点から励行し難いので予防衛生に重点をおいた獣医技術指導を行なう必要がある。このため、日常の衛生管理をきめこまかく指導する指導獣医師（管理獣医師）制度を設けることが望ましい。

3. 乳用雄子牛の集団哺育、育成ならびに肥育に関する衛生技術、とくに導入直後を中心とする哺育段階の集団衛生技術、下痢、肺炎等の多発疾病対策、Rumen Parakeratosis（第一胃角化不全症）、肝膿瘍、ビタミンA欠乏症（盲目症）、尿道結石症等最近問題となっている疾病対策など、獣医技術の開発を期待する分野が多いので、これらの試験研究を早急に進める必要がある。また、これらの研究成果を活用して速やかに乳牛雄子牛衛生指導基準を策定して衛生指導の効率を高めることが肝要である。

また、現在の人工乳は改良の余地が大きいので研究開発をはかる必要がある。

4. 一般に家畜衛生に関する情報の収集伝達はきわめて不十分であり、適時に適切な対策が講ぜられないため畜産の発展を阻害しているが、とくに乳用雄子牛の育成・肥育に関するものは極端に不足しており、指導体制の未整備とあいまって異常に高率な事故が発生しているまま放置されているので、衛生情報の収集伝達組織の確立をはかるべきである。

5. 乳用雄子牛の衛生対策を効率的に進めるためには、生産および流通体制の整備確立、子牛および肉の価格の安定など基本的な乳用雄子牛増産対策を併せて強力に措置する必要がある。

本事業にご協力いただいた北海道、宮城、栃木、埼玉、静岡、兵庫各道県の獣医師会、現地調査員、道県畜産課、所轄家畜保健衛生所をはじめ畜産関係各団体および中央において本調査の指導、検討をいただいた検討委員各位、および農林省当局、さらに本事業に助成いただいた地方競馬全国協会に深甚の謝意を表する。

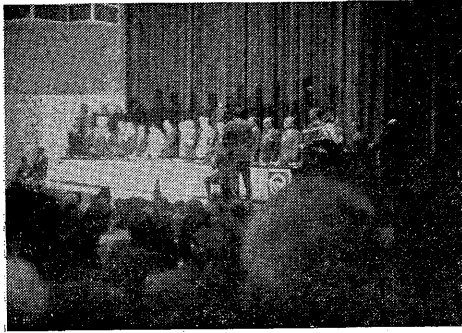
（日本獣医師会業務部長 高橋 徹）

## 第19回世界獣医学会議参加およびアメリカ合衆国 獣医畜産事情視察団報告（3）

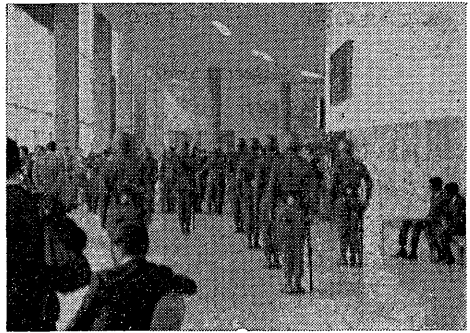
学会

第19回世界獣医学会議各分科会

分科会は16の部会に分かれ、IMSS（社会保障会館）の8会場で行なわれた。



開会式 (IMSS)



大統領送迎儀仗隊

1. 解剖学分科会
2. 生理、生化学および薬理学分科会
3. 寄生虫学分科会
4. 畜産物の衛生および獣医公衆衛生学分科会
5. 家畜飼養学分科会
6. 病理解剖学分科会
7. 微生物学および免疫学分科会
8. 獣医外科学の実験と進歩の分科会
9. 犬と猫の臨床研究分科会
10. 反芻家畜の臨床研究分科会
11. 馬の臨床研究分科会
12. 豚の臨床研究分科会

13. 鳥類の臨床研究分科会
14. その他の動物の臨床研究分科会
15. 医学に関連する獣医学の分科会
16. 獣医学教育と獣医学

○8月15日(日)

会場	11.00~12.00	12.00~13.00	14.00~17.00
1	開会式	総会 特別講演—獣医学 の社会に対する役 割りの重要性	Palacio de los Deportesにおい ての観迎会
第4会場	13.15	獣医解剖学会の会合	

○8月16日(月)日程(分科会)

会場	8.30~19.99	10.15~11.45	12.00~13.30	15.00~16.30	16.45~18.15
1	寄生虫学分科会の集会	最近における家畜繁殖の研究—大規模の実態、消費需要の関連と獣医師の活動	家畜繁殖における人工授精の短期と長期、関連性の問題	家畜飼養学(畜産技術)	熱帯における食肉の生産
2	白血病とマレック病	コクシジウム病	呼吸器病(鶏)伝染性気管支炎とニューカッスル病	解剖学の会合 I	解剖学の会合 II
3	豚コレラの撲滅	微生物学上の世界標準の進歩	マイコプラズマ病の獣医学における病理学的な役割	微生物および免疫学の会合 I	微生物および免疫学の会合 II
5	現代における小動物の癌治療の研究とその参考としてのコンピュータでの処理	犬・猫の肝疾患	犬・猫の栄養		* 15.00~16.30 第4会場—特殊感染症と獣医微生物および免疫に関する世界獣医師の会議
8	発情・性周期の統一化	飼料添加物による畜産物生産上の世界的問題(食肉衛生)	反芻胃の代謝器病に対する新しい知見	生理学、生化学、薬理学の会合 I	生理学、生化学、薬理学の会合 II

第4会場 15.00~16.30 家畜の微生物、免疫学および特殊感染症の会合. Auditoris Nacional において民族舞踊招待観覧

○8月17日(火)日程(分科会)

会場	8.30~10.00	10.15~11.45	12.00~13.30	15.00~16.30	16.45~18.15
1	獣医学研究と獣医業務活動における解剖学の役割	世界の動物の移動と衛生	家畜集約生産上の生理、病理学	寄生虫学分科会の会合 II	

資 料

2	呼吸器病：鶏のマ イコプラズマ病と インフルエンザA ウイルス感染症	女性の集会	鳥類のその他の病気	円卓会議・意見交換・ 熱帯における牛乳の 生産	鳥類の臨床研究会Ⅱ
3	ブルセラ病：非凝 集ワクチンによる 免疫		感染症に対する非特 異性免疫	鳥類の臨床研究会 Ⅱ	円卓会議 熱帯における牛乳の生 産
5	特別集会 1. 犬、猫の臨床研究		犬、猫の前麻酔	家畜衛生研究の集会	家畜衛生研究の集会
8	反芻獣の臨床研究 集会		慢性家畜伝染病の治 療の比較検討	生理学、病理学薬理 学の集会 Ⅲ	病理解剖学の集会

第5会場 13.00 世界の獣医解剖学会の会合 16.45~18.15 アメリカ獣医伝染病協会の会合

○8月18日(水) 日程(分科会)

会場	8.30~10.00	10.15~11.45	12.00~13.30	15.00~16.30	16.45~18.15
1	栄養障害の問題	飼料の栄養学特性を 修正する物理学的、 化学的および微生物 的要件	生前・生後の家畜の 解剖	寄生虫学分科会の集 会	円卓会議 寄生虫免疫学
2	飼料、食品の細菌 毒の探索(スタヒ ロコッカスアウレ ス、クロストリジ ウム、ボツリニウ ムほかにより産生 される)	蛍光抗体による屠畜 の寄生虫感染症の診 断	魚の生産と魚の衛生 の問題		
3	大腸菌の新生児免 疫	ウイルスと抗原との 関係、予防薬の使用 について	グロブリン免疫体と 免疫	円卓会議 反芻獣の狂犬病の制 圧	円卓会議(ディスカッ ション)反芻獣の狂犬病 の制圧
5	犬の前眼房水排泄 に関する研究	犬・猫の臨床研究の 特別総会	繁殖と繁殖障害	世界獣医学会議常任 委員会	世界獣医学会議常任委 員会
8	動物の疾患と染色 体異常	ミンクの形質球増加 症と人の膠原病の形 態病理学的類似点	口蹄疫に関する世界 の問題と他地域の防 止のための法案	反芻獣の臨床研究集 会 Ⅱ	反芻獣の臨床研究会

○8月19日(木) 日程(分科会)

会場	8.30~10.00	10.15~11.45	12.00~13.30
1	世界における動物蛋白の欠亡と 饑餓	動物の健康とコラーゲン重点飼料	胃腸寄生虫の疫学と予防
2	牛乳の衛生と獣医業務	食肉衛生と食肉衛生の法的な問題 に科学的意見の適用について	動物飼料の素性の中の毒性物質(殺 虫剤、菌毒素とほかの化学的物質)
3	異形性マイコバクテリア一病原 の役割り結核の診断に影響する 要因	細菌抵抗の変化と薬剤	口蹄疫のウイルス免疫
5	犬の自動免疫における現在の結 論的考え方	犬・猫の臨床研究の特別会合 No.3	馬の骨疾患
8	子牛の病気	第4胃の生理と病理	反芻獣の蜂巢胃炎の治療と予防

第4会場 13.45 獣医ウイルス学専門家とWHOの会合 13.30~19.00 メキシコロデオ観賞

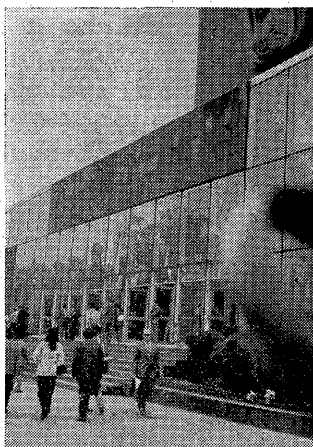
○8月20日(金) 日程(分科会)

会場	8.30~10.00	10.15~11.45	12.00~13.30	15.00~16.30	16.45~18.45
1	寄生虫病と栄養	狂犬病に関する総会 Ⅱ	牛と豚の囊虫症	写真展	写真展
2	萎縮性鼻炎(AR)		豚の腸炎	豚の臨床研究会	
3			馬の臨床研究会	円卓会議 フェネズエラ脳炎	円卓会議 フェネズエラ脳炎
5	組織移植の外科的 実験		獣医学教育の傾向 (卒業前と修業後の)	獣医学専門教育の集 会	世界獣医学協会の常任 委員会
8	牛の大規模企業に おける特殊疾病の 問題		牛の中樞神経障害 (脳軟化症)、脳栓塞、 髄膜炎、伝染性脳脊 髄炎	ブルータンクと接触 感染性肋膜炎	外科学研究の自由討議

○8月21日(土)日程(分科会)

会場	8.30~10.00	10.15~11.45	12.00~13.30	13.45~14.45
1	家畜のトリパノブーマ感 染症	家畜の外部寄生虫の制御	寄生虫分科会の会合	Ⅳ 閉会式 15.00H.S. 一世界獣医学協 会の常任委員会
2	豚の胃腸潰瘍	繁殖障害	豚の栄養病	
3	馬伝染性貧血	馬の病気と栄養関係	競走馬の治療薬とその影響 および馬の呼吸器病の最近 の進展	
5	原虫病(バベシア病アナ プラズマ病)	魚のウイルス病	動物園および野生動物の麻 酔の進歩、鳥類の病気	
8	実験動物SPFの大量生 産		反芻獣の臨床研究の会合Ⅳ	

Palacio de los Deportes においてメキシコの夕べ開催



(WVA会議場—IMSS)

〔参考〕

第19回世界獣医学会議参加国および  
参加団体と代長委員(常任委員)

国名(団体名)	代表者(常任委員)
アルゼンチン	Dr. BRANDARIZ
オーストラリア	Dr. W.I.B. BEVERIDGE
オーストリア	Dr. F. BÜRKE
ベルギー	Dr. A.E.R. WILLEMS
ブラジル	Dr. DURVAL BASTOS VALLADARES
ブルガリア	Dr. K. BRATANOV
カナダ	Dr. K.F. WELLS
チリー	Dr. S. GOLDZVEIG MARKMANN
コロンビア	Dr. A. BÓTERO DREWS
キューバ	Dr. JOSÉ HIDALGO PERAZA
チェコスロバキア	Dr. LAD POLÁK
デンマーク	Dr. C.I. WERDELIN
ドミニカ共和国	Dr. ANA M. DE WINDT
エジプト	Dr. MAHMOUD ROUHDY
フィンランド	Dr. H. WESTERMARCK
フランス	Dr. R. VUILLAUME

ドイツ	Dr. H. SCHULZ
ギアナ	
イギリス	W.B. SINGLETON, M.R.C. V.S.
ギリシャ	Dr. E. TSIROYANNIS
グラテマラ	
ハンガリー	Dr. L. VÁRNAGY
インド	Dr. V.S. ALWAR
イラン	Dr. M. KAVEH
アイルランド	
イスラエル	Dr. I. DAFNI
イタリー	Prof. D. GRAZIOSI
日本	越智勇一 (Prof. Dr.)
ケニア	Dr. I. G. GIBSON
ルクセンブルグ	Dr. A. SCHILTGES
メキシコ	Dr. JAIME VELÁZQUEZ B.
オランダ	Dr. S.R. NUMANS
ニュージーランド	A.C. HARKNESS
ナイジェリア	
ノールウェイ	Prof. Dr. W. VELLE
ペルー	Dr. J.F. FIGUEROA
ポーランド	Dr. H. OBERFELD
ポルトガル	Prof. J. FREITAS DE SOUSA
ルーマニア	Dr. M. STĂNESCU
セネガル	
南アフリカ連邦	Prof. Dr. B.C. JANSEN
スペイン	Prof. Dr. C.L. DE CUENCA
スーダン	Dr. GAAFAR KARRAR
スウェーデン	G. B. BJORKMAN
スイス	Dr. E. FRITSCHI
タイ	Dr. CHAKR PICHAIROUNAR- ONGSONGKRAM
チュニジア	Dr. H.M. EL FOURGI
トルコ	Dr. SELAHATTAN GÜRTÜK
アメリカ	Dr. S.F. SCHEIDY
ソ連	Dr. A.D. TRETIVAKOV
ウルグアイ	Dr. G.P. LOCKHART
ヴェネズエラ	Dr. VILLEGAS D.
ユーゴスラビヤ	Dr. Z. PETROVIC
世界獣医家協会	Dr. A. BRION
世界動物繁殖獣医協会	Dr. A. DE VUYAT
世界小動物獣医協会	W.B. SINGLETON

資

世界獣医解剖学協会 Prof.R. BARONE.  
 世界獣医食品衛生学協会 Dr.E.H. KAMPLEMACHER  
 世界獣医寄生虫学協会 Prof. Dr. J. EUSEBY  
 World Assoc. for Buaidrics Prof. Dr. K. DIERNHOFER  
 世界獣医外科学協会 Prof. Dr. S.R. NUMANS  
 世界微生物、免疫学および特殊感染症協会 Dr.C. PILET

世界獣医協会機構

会 長 Dr. WILLIAM I.B. BEVERIDGE  
 (オーストラリア)  
 副 会 長 Dr. JUAN F. FIGUEROA (ペルー)  
 // Dr. A.D. TRETIVAKOV (ソ連)  
 // Dr. E. FRITSCHI (スイス)  
 事務局長 Dr. JACOB JANSEN  
 事務局長代理 Dr. MAX LINENBERGER

第 19 回世界獣医学会議組織委員会 (メキシコ)

議 長 JAIME VELÁZQUEZ BERMÚDEZ  
 副 議 長 PABLO ZIEROLD REYES  
 事務局長 MIGUEL ARENAS VARGAS  
 出納責任者 (部) RAYMUNDO GANZÁLEZ  
 学会企画者 (部) PEDRO SOLANA  
 // CARLOS ARELLANO  
 // JORGE CÁRDENES  
 // JOSÉ TELCH  
 // HÉCTOR CARRILLO  
 // GONZALO DE LA FUENTE

社会文化関係および観光企画 (部) 責任者  
 HÉCTOR HERNÁNDOZ  
 MARTHA LANDZUERDE  
 ATALO DE LA ROCHA

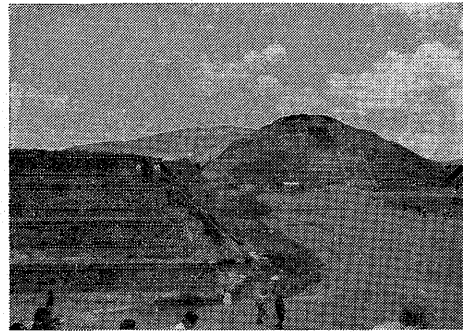
科学関係展示責任者 (部)  
 JUAN ANGEL ANDONEGUI

書籍、刊行物関係責任者 (部)  
 EMILIO ARIDS LUJÁN

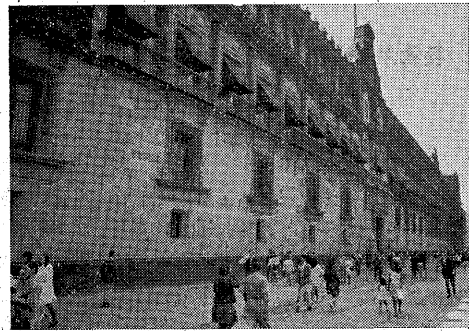
出版責任者 (部) MANUEL HIDALGO

料

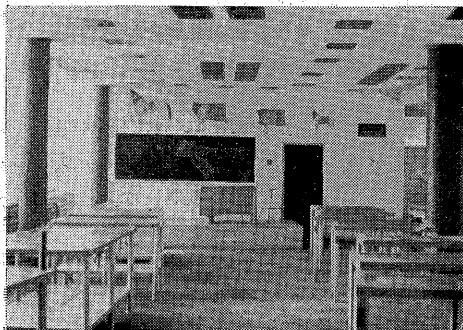
出版責任者 (部) RUBÉN ESCUDERO Y GUZMÁN  
 広告責任者 (部) MÁNUEL SANCHEZ  
 婦人部委員 GEORGINA H. DE VELAZQUEZ  
 // MARGAITA DE ANDONEGUI  
 // GERALDINA DE ARIAS  
 // EMMA DE GONZÁLEZ  
 参 与 MARGAITA SOTOMAYOR  
 // MARGARITA VEKASCO



テオテワカンのピラミッド  
 (メキシコシティ北部約 40 km)



メキシコ政庁前



メキシコ総合自治大学獣医学部教室

日獣のカラーズライド予告

発行企画

牛 の 乳 房 炎

現在製作進行中  
 発売 8月頃

日本獣医師会